



Juju Information Vol.72

Juju(こと、野田樹潤)

スーパーフォーミュラ 第5ラウンド 栃木・モビリティリゾートもてぎ
初めてのコース、酷暑の中の37周を18位で走りきる。
先行車両との順位争い、消耗したタイヤでの終盤の走りに見えた成長。

Juju (こと野田樹潤。NODA レーシング所属) は、8月24日(土) -25日(日)、栃木「モビリティリゾートもてぎ」で開催された SUPER FORMULA 第5ラウンドに出場しました。



25日(日)の決勝レースは、気温33度、路面温度37度という厳しい気象条件の中で行われました。「夏のもてぎでのレースは、他のサーキットとは比べものにならないほど暑さが厳しい」と出場経験のある選手が口をそろえるほどの過酷さ。1周4.8kmのコースを37周、60分、走り切った Juju は、18位でレースを完走しました。

レースを終えた Juju は、「レース前半ですぐ前を行く笹原右京選手に離されてしまったのが課題。でも、スタート直後での笹原選手との順位争い、中盤でその笹原選手に1秒差まで追いついていったこと、タイヤが消耗していった終盤でのラップタイムでは負けていないなど、収穫も得られました」と、自身でも成長を実感したコメントを述べていました。

8月24日(土)の1回目のフリープラクティス。スーパーフォーミュラで走る初めての「モビリティリゾートもてぎ」では、スーパーフォーミュラ車両での習熟走行には、あまりに時間が短い1時間半。その中でマシンのセッティングを変えながら、自身でもドライビングを試行錯誤しながらレベルアップをはかりました。アンダーステア(曲がらない)が強いと言う課題を残してセッションを終えましたが、トラブルやドライビングミスもなく、初走行としては良い流れのセッションになりました。

同日午後の予選では、フリープラクティスのマシンセッティングを積極的大胆に変更して1分34秒284のベストタイム。セッティングそのものは、「Juju 寄り」ではあったものの Juju 自身は「結果的にプッシュラップで2回ほどとっ散らかってしまっとうまくまとめられずにタイムロス。予選アタックラップを決められず超悔しい!」。元F1ドライバーでフォーミュラE世界チャンピオンのニック デフリーズ選手から予選タイムで0.4秒差だった事で更にアタック中の2回のミスをやみませんでした。

ただ、「エンジニアからは課題としているタイヤの使い方がデータでみると、随分良くなっていたとの事だったので、収穫はありました。」と、冷静な分析も忘れませんでした。TGM チームとしては、チームメイトのベテラン大津弘樹選手を持ってしても19位と下位に沈み、マシンセッティングに課題を残す結果となりました。



明けて 5 日 (日) の午前は、決勝レースを午後  
に控えてのフリープラクティス 2。このセッシ  
ョンは各車両で目的が違う事が多く、燃料を積  
まずに軽い車両でセットバランスを調整した  
り、燃料を満タンにして決勝レースに向けての  
習熟を進めたりします。Juju は、一発のタイム  
よりも決勝に備えて、敢えてガソリンを満タン  
にした重い状態の走行で、決勝でも戦えるタイ  
ムを記録。

そして、午後 2 時 40 分、決勝レースがスター  
ト。いつ降り出してもおかしくないような雲が  
かかったかと思うと、強烈な日差しも照り付け  
る、目まぐるしく変わる空模様。スタートリアクションで”ドンピシャ”のスタートを決めると、チームメイトの天津選手やグリッドで 2 列前だった 37 号車笹原選手と順位争い。その後は、何とか食らいつく走りを見せます。



11 周目には、早めのタイヤ交換。この際につけたタイヤは、ニュータイヤではなく中古タイヤ。次戦富士では 2 レース制の為に新品タイヤを残す作戦に。「交換作業も素早くて素晴らしかった。エンジニアやメカニック、マネージャーのみんなとも一体感ができた。チームに感謝。」と Juju。この早めのピットインは、タイヤが消耗する終盤で予想される苦戦は承知のうえ。笹原選手より先にタイヤ交換をすませ、笹原選手がピットインした間隙をぬって、前に出ようという作戦でした。結果的には、前に出ることはできませんでした。同選手の背後まで迫りタイム差を 1 秒台にまで詰めていきます。ニュータイヤを投入していれば確実に前に出られていました。しかも、終盤の厳しくなったタイヤの状態でも、同じく早めにタイヤ交換を済ませた選手の中では、同等もしくは、決して負けていないタイムで周回。タイヤ交換時に中古タイヤを装着した事を考慮するとこれは素晴らしい走りでした。結果は 18 位でフィニッシュしました。

Juju は、「次のレースでは、自力でポジションアップできるよう精一杯頑張ります。スポンサーの皆さんや、パリオリンピックのレスリングの金メダリスト・文田健一郎選手、樋口黎選手も応援に駆けつけてくださいました。ほんとにありがとうございます。次戦富士は、自身にとってスーパーフォーミュラ初の 2 レース制を経験します。チャンスをものにできるように果敢にチャレンジしていきたいです。」と決意を語りました。



レースを終えて、野田英樹 NODAレーシング監督は、「終盤、タイヤが消耗して厳しい中でもあのペースで走りきれたのは成長の証し。よく頑張った。レースでは十分戦える感触を得ている。タイヤもしっかり使っている。」と語りました。

そのうえで、今シーズンの残り 2 大会 4 レースに向けては、「クリアしなければいけない課題のレベルが上がってきている。それは、Juju の成長の証し、伸びている証しです。レースでは、シーズン当初は、トップ選手から周回遅れにならずに走り切れるか? という所だったのが、今では前に行く車両をどうしたら抜いて

いくことができるか、順位争いをしていくことを考えた作戦に取り組むようになった。第 6-7 ラウンドの富士スピードウェイ、第 8-9 ラウンドの鈴鹿サーキットではミスを恐れずに果敢に、そして、Juju 本人らしく明るく冷静に走れば良いと思う。更にもうひとつ TGM チームとして課題となっているマシンセッティングの精度を上げていけるようエンジニア始めチームとの更なるコミュニケーションをとっていくことで、また一段、二段と進歩していけると考えています」と、語っていました。

次の SUPER FORMULA は、10 月 12 日 (土) -13 日 (日) の富士スピードウェイでの第 6-7 ラウンドです。進化した Juju のレースにご期待ください。

この件に関するお問い合わせ先 : NODA RACING 広報担当 石川  
e-mail t.ishikawa@noda-racing-academy.org Mobile 090-8940-1683  
岡山・美作事務局 担当 須田  
Tel.0868-75-3283/Mob.090-5128-3064 mail k.suda@noda-racing-consultans.biz